

令和5年第1回定例会で行った新年度予算に対する総括質問の結果についてご報告します

子育て支援について

人口減少・高齢化が進むなか、これからの葉山町にとって大事な鍵を握っているのは子育て・教育政策だと考えています。

国は2018(平成30)年に『新・放課後子ども総合プラン』を定めました。このプランは、「放課後児童クラブ(いわゆる学童保育)」と「放課後子供教室(全児童を対象)」の二つからなっていますが、全児童の安全・安心な居場所の確保の観点から、国は両事業の一体的な整備を求めています。

第1回定例会に『放課後児童クラブの待機児童解消を求める陳情』が出されたのを受けて、放課後児童対策について質問をしました。

本来なら、不足を見越した町が学童保育をやってくれる団体に増員をお願いするのが筋だが、逆ではないかと質問しました。福祉部長からは「町の責務として感じてい

昨年施行された労働者組合法を活用して町が町内の農地所有者と法人との間を取り持ったり、町民農園がさらに拡大するように、町が間に入って利用者と農地所有者をつなぐ支援策を講じるなど考えないかと尋ねました。

町長からは「一次産業の活性化が、町の活性化につながると信じている。力をいれたいと思っている」との力強い答弁がありました。町内の農地活用には難しい課題が多いようですが、何とか出口を見つけ、近い将来必ず来る(と私はそう懸念している)食糧難に少しでも備えられればと思っています。

町制100周年に向けた取り組みについて

葉山町は令和7年1月に町制施行100周年を迎えます。町長は今年の町長施政方針で「100周年を機に、より多くの町民の皆さまが、これまでの葉山を知り、これからの葉山を考え、それぞれの活動や連携の中で、『御用邸の町』、『豊かな自然と良好な住環境の町』として将来の世代が誇れる町を創造していただければ幸いです」と述べています。

る。子ども・子育て支援事業計画の見直しをしているところであり、事業者さんから相談があればマッチングをしていく形になっている」という趣旨の、やるのかやらないのか良く分からない答弁がありました。

続いて、放課後子供教室について尋ねたところ、教育部長から「町では、子供教室は実施していない。場所的な問題を解決しなければならない」という趣旨の答弁がありました。

子どもは、遊びの中で生きる力を身につけていくものと考えています。学校の中に設置された子供教室で、校庭を走り回れる環境の下、親の就労に関わりなく子どもたちが過ごせる場所があったらいいと思います。

岸田総理が異次元の少子化対策(その後言い方が変わりましたが…)に取り組むと言い出しましたので、それを見越して町としてしっかり準備をして、いつでも国の施策に対応

他人事のような書きぶりだったので「やっぱり葉山はいい町だ、という自画自賛に終わらないように、次の100年のきっかけになる

できるという積極的な姿勢を見せたらどうかと尋ねたところ、町長から「楽しみにしている。自治体の負担があってもしっかり対応していきたい」といった趣旨の答弁がありました。

町内の食料自給率の向上について

地球温暖化による干ばつやロシアのウクライナ侵攻、世界人口の増加などで世界の食糧需給が逼迫しています。円安がさらに進む恐れがある中で、必要な食糧を確保できない時代が来るのではないかと私は懸念しています。

神奈川県は食料自給率は2%です。葉山町には、12haの休耕地があるということですが、土地を所有されている方の意向や、区画が小さいとかアクセスが悪いとかといった土地の特性もあり活用が難しいようです。✓

ような仕掛けをして欲しい」と言いましたが、公共施設の整備を着実に実施していくという、いつもの答弁でした。

皆さんはどう考えますか？

体育館とプールをつくって欲しいという声が、町民や議員から上がっています。私も体育館とプールにさらにカフェ・レストランが入っている施設ができるといいと思っています。災害時には炊き出し機能がついた避難所として利用できます。カフェ・レストラン部門は、民間企業とのコラボで建設・運営するのです。

町長は、老朽化した学校などの公共施設の更新整備をしなければならないので、新しい施設をつくる余裕が無いと言っています。しかし、海外での食料・エネルギーの逼迫と価格上昇、わが国における物価の高騰と賃上げ圧力、日本の突出した物価の安さと円安の動き等々不安満載の日本です。いずれ今後インフレが進む可能性が高いと懸念しています。インフレの時代は、お金が貯まってから使うのではなく、借金をした方が得です。

起債を活用して新しい施設をつくらないかと町長に水を向けましたが、今回も町長の慎重な姿勢の壁を崩せませんでした。

皆さんはどう考えますか？



Kazuo's Hyotan Column

～ 私たちの生活と葉山町を守るために～

『世界で最初に飢えるのは日本』というショッキングな書名の本をご存知でしょうか。著者は、農業経済学が専門の鈴木宣弘東大教授です。

この本の帯には、「ウクライナ戦争で穀物欠乏」、「異常気象、原油高騰…」、「円安でますます『買い負け』」、「日本人の6割が餓死するこの国家的危機を防ぐには何が必要か」と驚くようなことが書いてあります。本文には、「一日三食『イモ』の時代がやってくる」との見出しもあります。

18号と19号のひょうたん通信で、日本の置かれた状況についての私の思いをお伝えしてきました。総括質問でも、葉山の農業政策について質問しました。

今号では、食料・エネルギーの自給率の低さ、国際競争力の低下した日本の経済と危機的な財政、異常気象による干ばつ・洪水の頻発、そしていつ南海トラフ等の大災害が起きるかもしれない日本で、葉山に住むわたしたちの生活を如何に守るかという視点で考えてみました。

農漁業の生産力を高める

日本の農業政策を変えることが必須ですが、国の動きを座して待っているわけにはいかないくらい状況は切迫していると私は考えています。

3月10日の神奈川新聞の社説が『改めて議論を深めるとき―食料安全保障―』と題して、日本の農業の危機的な状況を紹介し、「国内生産の強化は産業構造の変革に踏み込むくらいの決意が求められよう。実効性ある対策を急ぎたい」と結んでいました。

先ずやらねばならないことは、葉山町内に存在する食糧増産につながる資源を探し出し、その徹底的活用を図ることだと思います。私には休耕地の活用くらいしか思い浮かびません。海に接している葉山にとって、海は大きな可能性を秘めていますが、私にはどうしたらいいか分かりません。先ずは、町が関係者の知恵を集めて政策化し、事業者や町民に必要な支援

をすることではないでしょうか。そのためには、農漁業政策を担当する町の組織強化も必要になるでしょう。私には、「一日三食イモの時代がやってくる」ことのないように、議会で町長や町の職員に呼びかけたり、こうして騒ぎ立てることくらいしかできませんが…。

地産地消など地域で回る経済の追求

『葉山町まち・ひと・しごと創生総合戦略』では、人口一人当たりの小売り販売額と課税対象所得を周辺市と比較しています。それによると、葉山町の課税対象所得(平成26年度)は207万5千円で逗子市、横須賀市、横浜市より多いのに、町内の小売り販売額(平成24年)は僅か48万2千円で逗子市の84%、横須賀市の66%、横浜市の56%です。

町民が稼いだお金が、町外にたくさん流出しているということです。仮に逗子市並みの小売り販売額(57万4千円)に引き上げたら、町内の小売り販売額が3千万円増える計算になります。

「漏れバケツ理論」という考え方があります。地域を「バケツ」にたとえて地域内の経済循環の効果を説明する考え方です。北海道の下川町でこれを実践し、経済の取り戻しを進めているそうです。

地産地消は、輸送コストを抑える意味でSDGsの点でも有効です。国を当てにしていると危険です。地域で回る経済の構築には、消費者としての私たち町民の意識改革も必要です。

子どもが健やかに伸び伸びと育つ環境の整備

葉山町の住環境に惹かれて移住してくる若い家族が増えています。産業の少ない葉山町にとって、人は最大の資源です。人口減少の時代、自然環境の良さに頼るだけでは自治体間競争に負けてしまいます。子どもたちが健やかに伸び伸びと育つには、親が安心して子育てし、働ける環境を用意することが必要であり、これに町

は責任をもって向き合う必要があります。総括質問報告で触れていますが、この定例会に、学童保育の待機児解消を求める陳情が出され、全会一致で採択されました。

子どもが保育園から小学校に上がる際に直面する社会的な問題を「小1の壁」と言うそうです。そして、「小1の壁」を機に4人に1人が退職や転職を選ぶなど働き方を変えざるを得ない現状があるというアンケート結果があるそうです。今、どこの自治体も子育て施策の充実に努めています。葉山が好きで移住してきてくれる若い家族の皆さんの期待を裏切ることがないように、子育てと教育の環境整備に力を尽くすべきです。恵まれた自然環境と御用邸の町というだけでなく、安心して子育てし働ける町にしましょう。

“今の生活が続けられる”は幻想ではないか

これまで、何度も私たちの置かれた状況についてこの欄で取り上げてきました。国にしっかり舵取りをしてもらい、私の心配が杞憂で終わることを祈りますが、残念ながら日を追うごとに私の危機感は募っています。自治体としてできることは限られてはいますが、少しでも備えがあるとないとは大違いです。

今年の春の温かさに、今から夏の暑さを恐れています。気候温暖化による異常気象への不安と、先日放映されたNHKスペシャル『南海トラフ 巨大地震』の迫真の映像が、いま私の頭の中にあります。

私の人生はあと僅かですが、孫達は22世紀まで生きていきます。



中村和雄 プロフィール

葉山町議会議員 1942年生まれ 横浜国大経卒
 【元】横浜市理事／横浜市福祉サービス協会専務理事／葉山町町内会連合会長／葉桜自治会長
 【現】社会福祉法人であいの会理事長／葉桜自治会会計担当

連絡先: 〒240-0113 葉山町長柄1617-12
 TEL/FAX 046-875-6925
 Email: 170202kn@ozzio.jp
 URL: https://www.nakamurakazuo.com/

